市の責務と使命、そして理念を条例に

〇今後さらに多数の人たちが認知症になることが見込まれる社会として、市民が認知症になってからも、偏見や差別を受けずに「自分らしく当たり前に生き生きと暮らし続けること（権利があること）」を明確に揚げることが、本人はもとより、家族や社会の安心や活力を高め、施策が真に役立つよう方向づけられる。

〇支援される一方ではなく、**本人がともにより良く暮らし活躍できる御坊の実現を**
～自分の力を活かして社会の一員として心豊かに暮らし続けられる社会を創る～

①外出や仕事、買い物、楽しみ等、一人ひとりが望む暮らしを続けられるための本人向けの情報や社会環境を整備することを基本とすることが、安心や自立（自律）、安定した暮らしを生みだす基礎になる。

②それらが、本人はもとより家族や地域の負担軽減や、過剰な医療や介護等の解消をもたらすとともに、地域社会の活性化や真に役立つ産業の振興、未来の市民全体の幸せにつながる。

（注）一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ（JDWG)「基本法に関する認知症の本人からの提案」参照

市のスタンスを明確にし、取組を推進する決意表明として、認知症とともに生きる希望宣言となる条例を

本人の視点で、本人とともに条例をつくる

条例作成ワーキングチーム結成

御坊市のような地域には、認知症に関する研究・学術機関等がないが、これまでともに地域づくりを考えてきた仲間、本人、家族とともに条例づくりをしたい。

認知症にやさしいまちづくり条例（仮）作成ワーキングチーム結成

ワーキング会議メンバーの構成

〇市内在住の認知症の本人及び家族
〇若年性認知症の本人とパートナー
〇市内認知症サポート医
〇ケアマネジャー
〇認知症対応型デイサービス管理者
〇病院地域医療連携室相談員
〇総務課（法制担当）
〇企画課（総活躍まちづくり担当）
〇認知症地域支援推進員

必要に応じて日本認知症本人ワーキンググループ
等からも参加、助言をいただく

ワーキング会議実施

６月２７日、第１回目の会議を開催。それぞれが思う「認知症にやさしいまち」について意見交換。

本人から出た意見

〇「認知症の人」という見方をされるから、**失敗を恐れ、本人は隠そうとする。失敗してもいい、そんなことを気にしなくていい**地域となるための条例をつくりたい。

〇認知症になってもできることがある。少しでも役に立てることがある。**そう思って地域に出ることができる**。そういうことを伝えたい。

以降、全４回の会議を重ね、すべての会議に本人が参加。
本人の意見をもとに、条例の内容を検討。

地域の本人の声

各メンバーから、地元で暮らしている本人たちの声も聴いてみたいと意見が出て、地域に出向いてヒアリング。

在宅６０代男性

市がそんな条例つくってくれるのはうれしい。**希望を捨てずに暮らせるってことやろ**？認知症になっても暮らしは変わらんし、認知症になることは怖くないよ。

在宅９０代男性

認知症の人は、誰もがなりたくてなったのではないということをすべての人が理解し、**一人の尊い人格を持った人間として人権を尊重してほしい**。

通所サービス９０代女性

９０歳過ぎたからといって見捨てないで！**９０年生きたからこそできること、私にしかできないことがあるの**。そういうことができる条例があれば、もっと頑張れる気がする！

グループホーム入居者７０代女性

地域のためにできることは何でもしたい。みんなの力になってあげたい。でも、常に周りの人といるとしんどくなるので**干渉しすぎないでほしい**（過剰な介護はいらない）。（条例をつくることについて）そういうのがあれば、生きることに対する興味に繋がる。

今までこうやって本人の声を聴いてくれることがなかった。でも聴いてみると年齢に関係なく、一人ひとりが色々な思いを持っている。こういう声を発信してくれれば、他に続く本人たちも出てくると思う。（JDWG　藤田和子代表理事）

「家族」ということについて（第3回会議にて）

本人から出た意見

○「本人と家族」と併記することはどうなのか。**条例の目的、誰のため、何のため**にこの条例を制定するのか。

○これまで、本人と家族を並べてきたから、**本人は家族に遠慮して言いたいことを言えず、本人の思いを家族視点で家族が代弁してきた。**

○**別に家族をないがしろにするとか、そういうことではない**。ここに「家族」と明記しなくても、家族は色々やってくれるし、逆に「家族」と入れることで家族は負担を感じることもあると思う。

○家族のいない人、または様々な理由で**家族より「パートナー」の存在のほうが大事な人もいる**。そういう人たちがここに「家族」と書かれていると、どう感じるのか。

家族から出た意見

○本人が言うように、この条例の目的は何なのか？本人視点を重視、本人を中心とした条例という柱があるのに、**私たち（家族）の声が入ると違う方向に広がってしまうと思う**。

○家族として、私たちの声・思いを入れてほしいという気持ちもあるが、この条例の理念からすると、ここは**認知症の人１本で通した方がいい**と思う。

条例に盛り込む内容

これまでの会議で出た意見をもとに、法制担当者と相談しながら条例案作成。

目的

誰もが生き生きと活躍でき、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるまちの実現

基本理念

認知症になってからも希望と尊厳を保持し、自分らしい暮らしができること。
自らの意思によりできることを安心・安全に行え、**いつまでも新たなことに挑戦できる**こと。
認知症の有無にかかわらず、すべての市民が暮らしやすいまちとなるためにそれぞれが活躍できること。

市の責務

認知症の人が希望を持って自分らしく暮らし続けられるまちづくりの施策を講じる。
認知症の人の意見を聴き、本人とともにより良いまちづくりを不断に目指す。
そのために、**認知症の人を含めた協議体**の設置。

条例に盛り込む内容

本人の役割

認知症とともに暮らしていく中で、**自らの希望、思い、気づいたことを、身近な人、市、関係機関等に発信する**。
地域の一員として、自らの意思により、社会参加及び社会参画をする。

市民の役割

認知症とともに生きていくことへの理解を深め、認知症になってからも自分らしくより良い暮らしができるための**備えに努める**。
認知症の人がさまざまな領域で日常的に社会参加及び社会参画できるよう配慮する。

事業者の役割

認知症の人が安心して自らの意思や力に応じて働けるよう、特性に応じた配慮に努める。
従業員に対して、認知症とともに暮らしていくことに関する必要な教育の実施に努める。
認知症の人が暮らしにかかわる**サービスや支援を安心して利用できる環境の整備**に努める。

関係機関の役割

認知症の人が安心して暮らしていくために連携と協働により必要な支援を行う。

条例の普及・啓発、認知症施策の推進に向け「認知症施策推進庁内連携会議」を開催

条例づくりを通じて

〇条例のタイトルについて（最終第４回会議にて）

これまでの意見、条例の内容から「認知症にやさしい」という表現は違う。**自分（本人）たちは守られるだけの存在じゃない**。

→「**御坊市認知症の人とともに築く総活躍のまち条例**」

〇条例づくりを通じての意見

日本認知症本人ワーキンググループの当事者から「御坊市の条例は、**私たちが目指す社会の実現が可能なことだ**と示してくれた」

参加した本人たちから「行政主導ではなく、研究者や学者がつくったものでもなく、**間違いなく私たちの言葉でつくった**条例。これからも一緒に希望を持って暮らせる地域をつくっていきたい」

（本人の声）

将来的に、「認知症の人」と区別しない地域、そしてこの条例が必要ない地域になればいいと願います。